

【様式1】

概 要 書

ふりがな 題 目	たしぜん かわ かんてん と い せつけい 多自然川づくりの観点を取り入れた設計について		部 門	イノベーション
所 属	長野県下伊那南部建設事務所 整備課	役 職	課長補佐兼整備 第一係長	氏 名
	同 上		技 師	きのした ひでき 木下 英樹 ○ たかはし まさし 高橋 雅

【アピールポイント】 ※キーワード的に簡潔に

- ・多自然川づくり、地域住民との協働

1. はじめに

飯田市南信濃和田地区を流れる一級河川遠山川は、観光施設が併設される(国)152号道の駅や遠山中学校、和田保育園等の公共施設が隣接する地域を流下している。当箇所は近年の大規模出水等による河床洗掘により、河床の低下が著しく、安全性の向上が望まれている。そこで、河床低下箇所等ネック箇所の解消を図るにあたり、最新の多自然川づくりの考え方を取り入れ、かつ、地域の特色を活かした河川改修を推進している。

本稿は、川づくりの目指す方向性と、基本計画策定までの経過、及び遠山中学校横工区における設計の考え方について報告するものである。



2. 取り組み概要

1) 概略設計

川づくりの計画を策定するにあたり、地域や川の特徴を熟知している住民代表で構成する「遠山郷いい川づくり」会議を設置した。住民主導により、現在までの地域や河川に関する情報を踏まえ、河川改修の目指す方向性について意見交換を行い、全6回の会議を経て、基本計画書を策定した。

2) 詳細設計

上記基本計画書、専門家への技術相談結果に基づき、多自然川づくりの考え方を取り入れ、景観や親水性に配慮した詳細設計を実施した。また、完成イメージパース図を用いて住民と完成後のイメージを共有した。

3) 工事

完成イメージのようにするには、石1つ1つの配置においても石のかみ合わせを現場で考える等、施工においても留意が必要である。また、住民と考えたものが現場でどのような形になるのかイメージの共有を図るため、住民を対象とした現場見学会を適宜実施した。



3. 結 び

多自然川づくりは、川の自然な営みや、複雑な自然現象のなかでの変化を許容する川づくりであるため、数年後に完成イメージ図のようになっているのかは不明である。

そのため、多自然川づくりにおいては、工事が完了した時点で終わるのではなく、その後の出水や自然環境の変化等、河川のモニタリングを行うことが大切である。また、各関係者と協働して、川づくりの目標達成について調査することや、維持管理活動を行うことで、今後の川づくりに活かし、改善を図っていくことが大切である。